令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価（1月末実績）
年度末確定評価

施設名 歴史と民俗の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに調査研究し、次世代に継承する。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信する。
- 3 地域や学校と連携し、埼玉の歴史と民俗に関する生涯学習や学校教育を支援する。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を支援する。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用を進めるとともに、学校や地域社会の幅広い人材と連携・協働し、開かれた博物館活動を展開する。
- 6 資料を核にして県民が集い、交流し、活動する快適空間を提供する。

2 現状分析と課題の抽出

【資料収集・保管・活用・次世代への継承】資料の収集方針や資料管理要項に基づき計画的に実施しており今後も体制の維持と職員への意識付けが継続して必要である。また、資料の収蔵スペースの不足が今後の課題である。

【収蔵資料や地域に関する調査研究】近世・近代絵画コレクションを研究テーマに調査を開始した。特別展・企画展への成果の公開を含めた調査研究テーマの設定と計画策定を継続的に進めていくには、組織としての体制整備が必要である。

【展示公開】「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展が好評を得ており、展示内容に応じた新たな観覧者層の掘り起しに成功している。質の高い展示事業を不断に継続していくためには、以下のことが必要である。①早期の計画作成と十分な準備期間の確保、②調査研究と連動した展覧会計画、③全ての常設展示での、これまでの調査研究の成果を活かした展示内容の更新。

【情報発信】デジタルコンテンツ作成、ホームページやSNSを活用した情報発信について、工事休館中積極的に実施した。今後、インバウンド需要、DXなどの社会状況に応じた効果的で効率的な情報発信を模索していく必要がある。

【生涯学習と学校教育の支援】体験ボランティアの確保や学校団体受入れ、出前授業への対応に課題がある。体験メニューや学校への学習メニューを常に見直し、新たなメニューの開発や、ICTを効果的に活用した効率的な学習支援の方法を検討し実施する必要がある。

【県内博物館の支援】引き続き埼博連事務局館として県内博物館の中核的役割を担うとともに、研修会や展示及び普及事業での連携を通じた県内博物館への支援が求められる。

【幅広い人材との連携・協働】博物館クルーや体験ボランティアとの連携・協働はできているが、学生ボランティア(高校生・大学生)の登録が少ないなど、世代としては限定的である。より多くの世代の参加により世代間交流を促し、県民各層が幅広く参画し利用できる博物館を目指す必要がある。

【地域活性化を目的とした連携・協働】ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会を中心に周辺関連施設との連携・協働の取組みを進めるとともに、文化観光や街づくりの分野などの新たな団体も視野に入れた連携・協働を模索する必要がある。

【快適空間の提供】誰もが利用しやすい施設を目指し、案内表示等の環境整備とともに、展示解説や展示手法においてもデジタル技術を活用し、多くの人が見やすく理解しやすい展示内容に継続的に更新していく必要がある。

(* 下線箇所は次項の中期的な目標や方針に関連する課題)

(1)全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	収蔵スペースの確保に努める必要がある
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3	
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	2	資料解説等の充実に努める必要がある
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	適宜、案内表示やパンフレットの配布を行っているが、さらに充実を図る必要がある。
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容	達成度	課題等
情報発信	① SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	② 資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	2	学芸員の研究成果を分かりやすく発信するため、「学芸員ノート」を作成しHPで公開する必要がある
	③ 定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④ デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	2	さらにデジタルコンテンツの充実にも努める必要がある
県民との協働・地域連携	① ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	② ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③ 外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④ 地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤ 地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	① 収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	② 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③ 館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④ 学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	② バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	2	さらなる充実を図る必要がある
	⑥ 展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の利活用	① 施設利用のための情報を公開しているか	3	
	② 施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④ 施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 歴史と民俗の博物館

(2) 館別独自項目

項目	チェック内容	達成基準	
		達成度	課題等
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
特別展・企画展・常設展の実施	①	中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	3
	②	県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	3
	③	調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	3
	④	全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	3
	⑤	展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか * アンケートでの満足度 氏邦展88.8%、お金展94.8%、鷹のおでまし74.3%	3
中核的施設としての活動	①	県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	3
	②	県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	3
	③	県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	3
	④	県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	3
ゆめ・体験ひろばの運営	①	地域の文化資源を活用し、埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	3
	②	常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	3
	③	世代間交流ができるプログラムを提供しているか	3
	④	地域と連携し、多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	3
	⑤	学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	3
伝統文化の記録・公開・継承	①	県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	3
	②	展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	3
	③	県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	3
	④	伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	3

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定

【中期的な目標や方針】

- 1 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組(R5-10)
- 2 ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組(R5-7)
- 3 GIGAスクール構想に対応し、ICTを効果的に活用した学校連携の強化(R5-7)
- 4 誰もが利用しやすく理解しやすい館内・展示環境実現の取組(R5-7)

【取組】

- 1 ①研究テーマ及び展示公開までを含めた年次計画の策定(R5実施済)と実施に向けたチームの編成(R5実施済)、展示公開へ向けた調査研究の実施:(R6-9:調査研究、R10:展示公開)
②中期的な調査研究テーマ(新規)についての検討(R6実施)
- 2 ①ホームページ「スタッフブログ」の充実(掲載本数:R6 20本、R7 20本)
②館有資料に関するデジタルコンテンツ(YouTube動画)の制作と公開(R5~)
③情報発信に係る委員会等による効果的で効率的な情報発信の検討(R6~)
- 3 ①第4学年社会科に対応したオンライン授業の実施
井沢弥惣兵衛(R5環境整備・試行済 R6 ~実施)
②タブレット持参の社会科見学に対応した2次元バーコード読み取りによる展示解説の設置
(R6 展示解説の制作開始 R7 実態に則した活用)
- 4 ①デジタルを活用した展示手法の実施(R5・6 検討・試行、R7 実施)
R6特別展「鉢形城主 北条氏邦」において、文書資料翻刻文のデジタルデータを提供
特別展「鷹のおでまし」において、資料一覧および解説文の一部の英文デジタルデータを提供
特別展「はたらく装いのフォークロア」においてデジタルデータを提供

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1-6 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	117,000	人	達成	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値(*1)
				127,164	人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	30,500	人	達成	基準値:30,497人 目標参考値:30,497人(*2)
				39,324	人		
3	使命1-6 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	300	人	達成	(*3) 基準値:273人 目標参考値:292人
				404	人		
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	454,060	件	達成	基準値:454,058件 目標参考値:454,058件
				507,331	件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	340	件	達成	基準値:177件 目標参考値:319件
				377	件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	17,489,000	円	81.0%	当該年度予算計上額(*4)
				14,183,067	円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命2 展示	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	19,170	人	94.9%	基準値:19,166人 目標参考値:19,166人
				18,193	人		
2	使命3・5 学校連携	出前授業	出前授業の実施校数	50	校	達成	基準値:43校 目標参考値:47校
				53	校		
3	使命3・5 学校連携	団体利用	学校団体の博物館利用校数	90	校	達成	基準値:85校 目標参考値:85校
				90	校		
4	使命2・4 情報発信・活用	情報発信	ブログの掲載本数	20	本	達成	「中期的な目標や方針」2による取組み
				26	本		

*1 利用者数＝入館者数+アウトリーチ参加者数+講座・講演参加者数+資料貸出・特別利用件数+レファレンス件数+動画再生回数+SNSリアクション数(第4期教育振興基本計画の目標指標による定義)

*2 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値

※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

*3 年間利用者数÷開館日数(R4・R5の長期休館期間中のアウトリーチ数は除外して算出)

*4 R6年度当初予算(使用料9,282/財産収入243+3,060/諸収入4,904千円/物品売払収入3,078千円)

3 取り組みの概要

施設名 歴史と民俗の博物館

【令和6年度中期的な目標や方針に対する取り組み】

1 研究テーマに基づく調査研究と展示公開の取組

【収蔵資料や地域に関する調査研究】 県にゆかりの近世・近代絵画コレクションについて所有者からの聞き取り等の調査を進めた。

2 ホームページやSNSを駆使した効果的な情報発信の取組

・275回(月平均22.9回)のホームページ更新を行い、507,331件(月平均42,277件、年間目標値の111.7%)のアクセスがあった。
・315回(月平均26.2回)のXの更新を行った。

3 GIGAスクール構想に対応し、ICTを効果的に活用した学校連携の強化

・ゆめ・体験ひろばと学校をオンラインで結び、まがたま作りを行った(8月)
・学校の団体利用、出前授業の事前打ち合わせにオンラインを活用した(4月～1月)
・博物館学習オリエンテーション、井沢弥惣兵衛についてオンライン授業を行った(1～2月)

4 誰もが利用しやすく理解しやすい館内・展示環境実現の取組

・特別展「鉢形城主 北条氏邦」(会期:3月16日～5月6日)展示会場において、QRコード読み取り方式により、展示した古文書の読み下し文デジタルデータを来館者に提供した(4～5月)。展示することができない多くの情報の提供手段として有効であった。
・特別展「鷹のおでまし」資料一覧および解説文の一部を英文デジタルデータにて提供した(10～11月)。
・特別展「はたらく装いのフォークロア」あいさつ文、各章説明文を英文デジタルデータにて提供した(3月)。

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

【資料保存】

- ・IPM(総合的有害生物管理)に基づき、資料清掃・点検を行っている。年間スケジュールを立てて、月に2回計画的に実施している。
- ・学芸員・教員籍・行政職を含めた全館体制でのIPMの実施体制が確立できている。
- ・今年度は、3月末時点で31,976点の資料点検が完了し、順調に進めることができた。

【展示公開】

- ・常設展示において、月例の展示替に加え特集展示を開催し、収蔵資料の公開活用を進めた。
- ・次年度以降の展覧会の中期計画を作成し、それに基づく資料調査を進めた。
- ・デジタル活用として、特別展の展示解説資料や英訳文を、QRコード読み取り方式で提供した。

【情報発信】

- ・ホームページ・SNSともに、月に20回以上の更新を行い、積極的な情報発信を行った。
- ・HPに掲載しているスタッフブログは掲載計画を超える記事を掲載した。

【学校利用】

- ・学校の校外学習に係る学校団体は、90校(目標90校)を受け入れた。
- ・出前授業は、53校(目標50校)を実施したほか、オンライン授業も18回実施した。オンライン授業は、より詳しい解説や個別テーマによる授業要望など、きめ細かいオーダーに応える手法として活用できると考えている。
- ・団体利用(来館)と出前授業は、学習内容にあった時期の利用希望が多く季節的増減が大きい。このため、利用が比較的少ない時期の利用について働きかけを行った。

【地域連携】

- ・「大盆栽まつり」などに博物館としてブース出展したほか、ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会(MVO)として大宮第二公園防災秋まつりにブース出展するなど、地域イベントに積極的に参加し、PRに努めた。

(2) 課題と対応の方向

1、適切な資料保存の取組の継続

- ①引き続き、IPMに基づき、計画的に資料清掃・点検を実施して、資料保存・管理に努めていく。
- ②燻蒸ガス(エキヒュームS)の販売終了に伴い、薬剤による資料燻蒸が難しくなっているため、二酸化炭素を活用できるよう減圧減菌装置の改修を予定している。

2、特別展・企画展および常設展示の運営

- ①特別展・企画展については、調査研究と連動した早期の計画作成に基づき、準備期間を十分確保し、展覧会内容の充実をはかる。
- ②展覧会でのデジタルによる解説文・英文等の提供を継続し、見やすく理解しやすい展示を実現する。
- ③調査研究の成果を生かして常設展示の更新を進める。

3、GIGAスクール構想に対応したICTを効果的に活用した学校連携の強化の取組

- ①オンライン授業については、想定した授業テーマと学校のニーズにミスマッチがあったため、その学校のニーズを踏まえたコンテンツを増やしていくことが必要である。
- ②社会科見学向けに、タブレット利用を想定した2次元バーコード読み取りによる展示解説を用意したが、タブレット持参の学校がほとんどなく、解説ボランティアの解説を利用することが多かった。今後は、来館の多い小学校中学年の児童の一人一人に応じた学習に対応するため、オンデマンド型の動画コンテンツ(昔の道具など)を拡充させていく。

Ⅲ 評価

2 外部評価委員等によるコメント

<委員コメント①>

●出前授業やオンライン授業は、子供たちが地域の歴史や民俗に興味を持つきっかけとなると思うので、積極的に行っていることは評価できる。ただ、どこの学校も同じメニューで行うのではなく、学校によって内容を変え、その地域の文化財や歴史上の人物、祭りなどに特化した授業を行えば、子供たちはより関心を持つのではないのでしょうか。

●特別展や企画展は毎回充実していて大変勉強になりますが、一つ注文をいうと、もう少しタイムリーな企画を考えてほしい。今年であれば、植樹祭に合わせて「木の民俗、とか、戦後80周年に合わせた現代的視点な企画とか。一番手っ取り早いのは、大河ドラマのテーマに便乗してしまうのですが…。そうすれば関心も集まり、来場者も増えると思います。

<委員コメント②>

令和6年度の博物館活動を折々に拝見いたし、埼玉県の歴史と民俗の専門博物館としての使命・ビジョンを果たすために、活動の詳細な現状分析や課題を抽出して、真摯な取組が行われ、職員さんのチームワークの基に目標が達成されていると高く評価します。以下、気づいた点を述べます。

【資料保存】

●Ⅲ-1-(1)では、「IPM(総合的有害生物管理)に基づき、資料清掃・点検を行っている。今年度は、3月末時点で31,976点の資料点検が完了」とあり、お疲れ様です。博物館では、見えないけれど重要なお仕事です。そんな博物館の資料の保存管理の取組を、某スパイ映画のような名前、「Mission In Museum」と題して、専門的な内容の展示がわかりやすく行われ、興味深く拝見しました。貴館の公式SNSのX(旧Twitter)には、このコーナーを紹介するお話もありました。学芸員を目指す学生さんから年齢を問わず博物館の見学者にも、作品を鑑賞するうえで、資料保存・継承の大切さの気づきとなる意義ある展示であると思いました。

●また、Ⅲ-1-(2)、「課題と対応の方向」では、「②燻蒸ガス(エキヒュームS)の販売終了に伴い、薬剤による資料燻蒸が難しくなっているため、二酸化炭素を活用できるよう減圧減菌装置の改修を予定している。」とあり、大切な作品・資料をカビや害虫などから守るためにも、日頃の定期的に地道で適切な予防的清掃・点検を引き続きよろしくお願いいたします。

【展示公開】

●常設展を拝見いたし、展示解説ボランティアさんが15分の解説のために、大変勉強されていることがわかりました。お教えいただきありがとうございます。私が拝聴した時には「弥生人は二度死ぬ」というお話を伺い、それは、ボランティアさんが群馬県の博物館へ行き、勉強してきたことだとおっしゃっていました。「こういうところも見た方がいいよ」「ここには書いていないんだけど、こういうのもあるんだよ。」と、展示の見所を教えてくださいました。また、常設展の展示解説の時に、同じ家族連れと何度も一緒になりました。このように1日を博物館で楽しんでいる方もいらっしゃいました。今年の大河ドラマは江戸時代が取り上げられているので、収蔵品を活用して江戸時代をテーマにした、歴民ならではの常設展示を企画していたかと楽しく見学できると思いました。

●企画展「お金を出して！」と特別展「鷹のおでまし」を拝見しました。展示ケースには、それぞれのテーマに沿って作品を並べなくてはなりませんが、ケースの広さや作品の大きさによる縛りがある中で、テーマに沿って動線を考えるなど、学芸員さんの創意工夫を感じました。また、展示室のライティングについても美術品は照度を上げられない中で、展示ケースの上に鷹の模型を置いてそこへライティングがされているなど、とても効果的な工夫を感じました。作品の見るべきポイントをパネルにより、的確に示しており、楽しく見学することができました。

●「鳥博士のおでまし」のギャラリートークを拝聴しました。生物と美術の2つの視点から、作品に描かれた鳥について鑑賞しました。会場には、鳥好きさんも参加しており、ケースの所々で話が盛り上がっていました。また会期中には「鷹匠のおでまし」もありました。当日は見学できなかったのですが、鷹匠さんが来て実演された様子をビデオで放映していたので、鷹の動く姿が見られてとても興味深く思いました。

●「美術特集展示『ほとけを飾る』」では、令和6年度埼玉県指定文化財に新規指定された「紺紙金字法華経」（加須市 徳性寺蔵）を拝見しました。展示室は荘厳の雰囲気にも包まれ、新指定作品も含め仏教美術品を楽しむことができました。

●企画展や特別展のテーマは、近年の多様性が叫ばれる時代で、どのようなテーマを取り上げると来館者増が見込めるのか予想が付きません。先日、米沢市上杉博物館を訪れ、特別展「上杉氏と鷹と馬」を開催しており、埼玉でも「鷹のおでまし」展があり、注目されている旬なテーマを取り上げているのだと思いました。学芸員さんが積極的に研究に携わり、その成果を展示や図録・紀要などの刊行物や講演会やギャラリートークなどにより公表し、社会へ還元することを、これからも応援したいと思います。

【情報発信】

●Ⅱ-2-3、「取り組みの概要」では、「275回（月平均22.9回）のホームページ更新を行い、507,331件（月平均42,277件、年間目標値の111.7%）のアクセスがあった。」「315回（月平均26.2回）のXの更新を行った。」とあり、時代のニーズに即したホームページやSNSを駆使した、積極的な情報発信が行われていると思いました。講演会やギャラリートークに参加できなかった人でもブログを読むことで、活動を知ることが出来ます。

●一例には、「お金を出して！」展の開催中に「貯まれ！みんなのお金ストーリー」と題して、お金にまつわるエピソードの募集があり、会期中にはさまざまなエピソードが書かれた付箋がボードに貼られていました。あとでブログを見返し、（預金派・タンス貯金派・貯金箱派の投票）結果発表は、「ほぼ ひきわけ！」とあり、興味深く拝見しました。これからも、注目コンテンツ「常設展の見どころ」等々で、見学ポイントや見どころをインターネット等で発信していただき、地元埼玉の歴史・民俗に関心が持てるよう、情報発信をお考えいただきたく思いました。

【学校利用】【地域連携】

●出前授業等、学校団体の利用や地域イベントへのブース出展では、児童・生徒数は減少傾向にあり、人数が少なくてもこの活動の準備や工夫には大変苦労があると拝察いたします。2024年度ブログ(13)「『れきみん埼玉』の出前授業」を拝見しますと、「出前授業」メニューのひとつ「衣装から学ぶ！日本の歴史」は、6つの時代の衣装を着装する体験学習であることがわかります。ブログ写真からは、小学生が古人のように衣袴や衣裳を着装して楽しい授業風景が伝わります。これからも博物館ならではの体験学習の活動の継続をお願いいたします。

●最後に、“ゆめ・体験ひろば”では、「まが玉」と「藍染めハンカチ」を体験しました。この体験メニューには、ボランティアさんがそれぞれの製作工程の解説に止まらず、その歴史や作業のコツなど親切にお教えてくださいました。お陰様で楽しく体験できました。これからも県民に開かれた身近な博物館、“文化の発信基地”として引き続き活動が継続されますことを期待いたし、応援いたしております。

<委員コメント③>

●資料保存については、寄贈者の方々等の中から後世に保存してゆくべく託された貴重な史資料ゆえ、年間スケジュールのもとIPM等、全館体制で適正に管理していることは高く評価できる。また、薬剤による燻蒸が難しくなっていることへの対応にも計画的に取り組んでおり、今後、本業界で進歩した資料保存の技術が一般化していくことがあれば、予算的な課題もあると思いますが、速やかに取り入れる準備が進むと期待します。

●展示公開については、常設展示において、月例の展示替え等、収蔵資料を積極的に公開、活用したことは寄贈等された資料が本当の意味で生き、県民の負託に応える取り組みでもあったと評価できる。また、次年度以降の展覧会について中期計画を作成したこと、それに基づく資料調査を進めたことは、今後の展示が専門的見地からも見ごたえがあり、かつ、一般の来館者にも分かりやすい展示を目指す素地になり、継続的に来館者の期待に応える取り組みだと思う。デジタル活用面では、解説資料や英訳文をQRコード対応したことなど、今日的課題に適切に応えていたことも高評価に値すると思います。

●企画展「お金を出して」、特別展「鷹のおでまし」、特別展「はたらく装いのフォークロア」等、学芸員さんの解説と共に見せていただきました。併行して観覧している一般の方々の中には、知っている知識と展示を結びつけて会話しながら観覧している姿を多く見ました。どの展示も「何をもって良い展示か？」、「そもそも良い展示とはどのようなものか？」、「観覧者が多ければ良い展示なのか？」、「貴重な資料に研究成果を盛り込むが、難解すぎではいけない」、「来館者目線、県民目線に立ったものか？」等、日々懊悩して形にしていって一つの芸術作品であることを多くの観覧者は十分理解してくれていると感じました。引き続き、多くの熱量を注いだ展示を期待します。そして、そうだからこそ宣伝、情報発信の仕方、方法については多くの可能性が残っていると思います。

●情報発信については、ホームページはじめYouTube動画など積極的に取り組んだことは時代の要請もあり、良き取組だったと思う。新たな動画編集も大切だが、本館PRのハイライトとなる不動のエース的なYouTube動画が一つあると一層、良いと思います。

●学校利用については、館の運営と学校側の行事との調整が課題と思われるが、団体利用、出前授業とも十分な数字だと受け止めています。

●地域連携については、地域イベントへのブース出展、防災まつりへのブース出展等、県の博物館として十分な役割を果たしたと思います。

●施設見学においては現在も工夫されていると思うが、高齢者や車椅子利用者など、引き続き、あらゆる人が快適に展示を楽しめる環境整備も重要なことと思います。

●デジタル技術の進歩により、近い将来、埼玉県立歴史と民俗の博物館は、3Dホログラム等を使った展示を実現するかもしれないと期待するところがある。例えば、特別展、企画展の目玉史料について、3Dホログラム・コーナーを造り、人物ホログラムが来館者に語りかけ解説するといった企画。一方で民俗、文化の展示においては、例えばレコードをレコード針を使って流すなど、現代では失われつつある音に触れる体験も貴重な機会、展示になると思います。

●改めて博物館は、歴史、民俗、芸術などの展示施設という機能はもとより、それらの貴重な史資料、遺産を未来へと繋ぐ重要な役割を負っています。また、教育、研究、文化交流などの拠点としての役割も負っていることから、埼玉県立歴史と民俗の博物館としては、引き続き、埼玉県の旗艦博物館としての自負と誇りをもって来館者の心を豊かにしたり、社会の発展に貢献するという役割も果たして欲しい、という欲張りなお願いをしてコメントを閉じたいと思います。